

松原区自主防災協議会(平成27年4月結成)

松原区自主防災協議会は、「松原区民の共助の精神に基づいて自主的な防災活動を行うことで、災害による被害の防止と軽減を図る」ことを目的に設置されました。平時の組織として、幹事会と支部(自治会単位)が、発災時には、松原区避難所運営本部と運営支部が設置され、避難所で活動します。

幹事会は三役と事務局長、幹事(支部長、防災士、消防経験者、民生委員代表、女性代表、有識者等)の19名で構成されています。

事業の中心は防災訓練で、情報伝達や避難誘導を行ってきました。特に力を入れているのは、要援護者の避難誘導を支援するための「防災福祉マップづくり」です。町健康福祉課や民生委員の協力を得て、災害時要援護者リストを作成し、マップ化しました。令和4年度以降、支部ごとに地域の安全点検を踏まえた「防災マップづくり」に取り組みます。

また、町・県の補助金を活用して、区内3カ所に防災倉庫を設置し、防災資機材を整備しました。

平成27年9月の「関東・東北豪雨」と令和元年10月の「令和元年東日本台風」では、指定避難所で町職員に協力して避難所運営の手伝いをしました。貴重な体験となりました。

コロナで活動自粛中には、洪水大雨の際の『災害発生時の避難行動計画タイムライン』を作成しました。現在、防災計画の改訂作業に入りました。

これからも、区民のみなさんの協力を頂きながら、“安全安心な地域づくり”を目指してまいります。



広報連絡委員レポート№.433



ひとりとき 孤独の時間を楽しむ

広報連絡委員 小村 敏雄

新型コロナウイルス「まん延防止等重点措置」解除中(令和4年4月現在)とはいえ感染者数の増加は止まらない。

高齢・糖尿病・高血圧の持病者には、趣味のボランティアガイドの実践、カラオケ、ゴルフ、ウォーキング、飲食歓談会等の今まで楽しんできた事が出来ず、本当に辛い日々の連続です。

ある日、「歩くとなぜいいか?」という文庫本に出会い、文中の「早朝散歩の楽しさ」に感銘を受けました。早速、いつもと違う時間帯にウォーキングしてみただけで新鮮な体験が出来て、「早起きは三文の徳」以上でした。

スタートの時刻は深夜です。月灯り(懐中電灯は懐の中へ)の明るさで、自分の足音が不思議に、軽快に響くためか足早になります。周りの景観は四季折々の変化に楽しみがあり、渡良瀬遊水地の堤を歩くのは格別です。自然の雄大さ、刻一刻と変わる美しさがとても楽しいです。満天の星

空から徐々に夜明けの気配が感じられて、朝焼けの真っ赤な色付きのキレイさ、朝霧の発生と移動、流れに目が奪われて、少しの間を置き日の出の瞬間を待ちます。この崇高な時刻に出会い、そして陽の光を全身で浴びる喜びを感じます。野鳥類が飛び立ち、特にコウノトリにも会える素晴らしい体験です。

「一日の計は早朝にあり」ということで歩きながら考えると、自分のこれまでの人生の懐かしい思い出が蘇ります。入社から定年まで辿って、勤務地・店舗・新店舗立ち上げの苦勞、同僚、上司、今でも付き合う仲間の顔が浮かび、メールや電話で連絡をとろうという行動に発展しました。

皆さん!!楽しいよ!!早朝ウォーキングを実践してみませんか?

